

WATER REVIEW 2023 FROM NEWYORK

国連 2023 水会議 速報 第1号

2023年3月22日(水)

日本水道新聞社無料配信

46年ぶり 世界の水を動かす



天皇陛下による基調講演が放映される会議場



ハイレベルパネルのパネリストとして参加した上川議員

国連 2023 水会議とは

国連 2023 水会議 (UN2023 Water Conference) が、国連が「世界水の日」に定める 3 月 22 日から 3 日間、ニューヨークの国連本部で開かれる。水に特化した国連会議の開催は、1977 年のアルゼンチン・マルデルプラタ会議以来 46 年ぶりとなる。

国連は 2018 年から「水の国際行動の 10 年 (Water Action Decade)」と定め、水の危機を回避するための取組みを進めており、今回の会議はこの中間評価が主な目的となる。

会議は主に 5 つのテーマ別討議 (▽衛生に関する水▽持続可能な開発に関する水▽気候、強靱性、環境に関する水▽協力に関する水▽水の国際行動の 10 年) で構成され、成果は国連総会議長のサマリーレポートとして取りまとめられる。

日本は「気候、強靱性、環境に関する水」の議長をエジプトとともに務める。政府は上川陽子衆議院議員 (水制度改革議員連盟代表) を首相特使として派遣。昨年 4 月に熊本市で開かれた第 4 回アジア・太平洋水サミットの成果、同サミットで示した「熊本イニシアティブ」による日本の国際貢献策をアピールする。

ユース世代の議論への参画も会議の見どころとなり、日本からの発信も注目される。

国連・水と災害に関する特別会合 天皇陛下が基調講演

21 日の第 6 回「国連・水と災害に関する特別会合」は、翌日からスタートする国連水会議の各セッションの議長らが議論を交わし、提言・提案を取りまとめるために開かれた。

今回のテーマは「気候変動のもとでの水と災害リスクの低減に関する中間レビュー」。主催者の「水と災害に関するハイレベルパネル」(HELP) が進行を務め、ハイレベルと科学技術のパネルディスカッション、そして本会議と大きく三つの議論が行われた。

このうちハイレベルパネルでは、各国政府の水所管部局のトップらが並ぶ中、首相特使としてニューヨークを訪れている上川陽子衆議院議員 (水制度改革議員連盟代表) がパネリストとして参加。歴史や地域の事情により画一的でない水問題を解決していくためには、持続可能で、強靱で、包摂的な「質の高い社会」への転換が必要だと指摘し、そのための工夫においては「災害リスクの管理」や「複数課題の同時解決」が重要な尺度になるとした。日本の取組みとして、熊本水イニシアティブについても紹介した。

続く科学技術パネルでは、取組み事例のプレゼンテーションの一つとして、熊本市の大西一史市長が講演。地下水涵養域の減少と頻発する洪水を

問題に挙げ、行政域をまたいだ地下水保全の取組みや、都市計画・市民と連携した防災・強靱化の施策を説明した。また、地域の取組みが世界につながる「オープンローカリズム」、レジリエンスと健全な水循環による「新しい水文化」などの考え方を紹介し、科学的知見や技術に裏打ちされた施策が「水の持続的成長」を実現するとした。

本会議では、国連のチャバ・コロシ総会議長とアントニオ・グテーレス事務総長らのあいさつなどの後、天皇陛下がビデオで基調講演された。「巡る水 - 水循環と社会の発展を考える」をテーマに、英語で講演された。翌日から水に関する SDGs の達成に向けた議論がなされるという観点から、水循環を通じた社会の発展と水・防災・気候変動の関連性を取り上げられた。水路や河川の整備が水害・火事の被害抑制につながった江戸 (東京) の歴史をご紹介になった後、東京都水道局の羽村取水堰、東京都下水道局の芝浦水再生センターなどさまざまなインフラにおける工夫事例を取り上げ、現在の課題解決のヒントは水循環にあるのではないかと、との考えを示され、特別会合と会議の成果に期待を述べられた。

水と災害に関する特別会合に出席した 熊本市・大西一史 市長

一会議での発表の狙いは

昨年のアジア・太平洋水サミットを踏まえ、他の方も話題に挙げていた気候変動と、熊本地域の水の保全の取組みについて話した。訴えたかったのはこれからの課題解決における協力、コラボレーションの重要性。自然環境をいかに守っているか、共有できたと思っている。

一他国の事例、発表を聞いての感想は

「水問題は政治そのもの」という言葉を聞いて、国際社会における水問題は本当に大きな課題で、未来に向けて一層注力しなければと感じた。こうした場をいただいたことに感謝しており、引き続き会期中に学びたい。

一日本に何を持ち帰りたいか

熊本の取組みが各国から注目され、評価されていることをお伝えしたい。皆さんと育んできた「開かれた地域社会」は世界にもつながっている。それを理解することで、さらに自信を持って取組みを続けていければと考えている。



会合後取材に応じる大西市長